ぷちまるえん

女性協議会

第25回東京支社に働く女性の集い

幸せは自分でつかめ！みんなでつかめ！

未来に備えて自己点検

5月17日に「第二五回東京支社に働く女性の集い」が日本記者クラブで開催され、四一名が参加しました。集いのタイトルは『幸せは自分でつかめ！　みんなでつかめ！　未来に備えて自己点検』。記念講演の講師、竹信さんの著書から一部拝借しました。雇用破壊、賃金破壊が蔓延し、ワーキングプア、ネットカフェ難民が社会問題になっています。さらに後期高齢者医療制度も出現し、弱い者いじめが横行する日本。介護や育児の制度はできたものの、働く女性の悩みは深く、女性が働き続けることは、まだまだ大変なのが実情です。〝幸せは持っていても、やってこない。自分で切り開かなくちゃ！　みんなで知恵を出し合って〟の思いをタイトルに込めました。

記念講演は、朝日新聞編集委員・経済部記者の竹信三恵子さんの『不透明な時代を生き抜く女の（男の）人生選び』。竹信さんは、日本がこのような状況になったのか、変えてゆくにはどのような打開策があるかを、明快に且つパワフルに語ってくれました。

グローバリズムや本格の中、男性のリストラや離婚が増えることで、昔から浸透していた「男は仕事、女は家庭」の基盤が崩れ、少子高齢化が進む中で女性が働かなければならない状況が生まれました。

パワフルな講師の竹信三恵子さん

●女性協
URL
http://www.minpororen.jp./women/index.html

真剣に講演を聞く参加者たち

雇用機会均等法が85年に成立したものの、派遣法が抱き合わせでコース別の導入や派遣が拡大しました。さらに95年の日経連の「新日本型経営」を皮切りに労働時間と賃金の二極化が進み、結果男女とも非正規雇用が圧倒的に増えました。

諸外国は、市民の運動と国の政策で、福祉の充実や手当て、雇用形態や就業時間の長短にかかわらず同一価値労働同一賃金の実施（時給が平等）、子持ちの人が働けることを標準にした時短、女性の雇用率を増やす、意思決定機関に女性を増やす等々、様々な工夫をして打開してきました。一方日本は「女と子どもには金をかけない」という政策で行き詰まっています。構造を変えていくのは大変ですが、まず自分が元気になりましょう！　例えば、自分を楽にすることを拒まない。家事の分散。助けてと言える力が自立。未来も、ガラッと変えるリセットではなく過去を生かして等々。

目から鱗のアドバイスが盛りだくさんで、大きくうなずく人が会場にあふれました。

もう一つは、九州朝日放送東京支社勤務の香月和宏さんが『民放の将来ってどうよ！』と題した講演を行いました。デジタル化や放送持株会社制度の現況、雇用の不安、視聴率の問題等々、放送をとりまく状況を、わかりやすく解説してくれました。

マルチメディアの中でテレビの不況が叫ばれる中、テレビは、「放送局という顔の見える情報が送れる媒体であること」「携帯やパソコンなど個人的なツールと違って横のネットワークが張れるマスメディアという特質があること」。また、視聴者のメディアリテラシーを高める一方、送り手側も何が大切なのかを真剣に考えていくことを強調されました。

二つの中身の濃い講演に、勇気が湧いた一日となりました。

女性のライフステージと健康

MIC女性連絡会・春の学習会開く

5月15日、文京シビックセンタースカイホールにて、日本マスコミ文化情報労組会議（MIC）女性連絡会の学習会「女性のライフステージと健康」が開催され、二三人が参加しました。

全日赤中央執行委員長の太田千枝子さんを講師にお迎えし『今、女性の働く環境はどうなっているか』『女性ホルモンに支配される女性のからだとは』『女性たちが、たたかってきた「母性保護」と働く権利』を テーマに講演していただきました。「青年・女性の二人に一人は非正規雇用という状況の中で、生理休暇など全く取れない、労基法・均等法・育児介護休業法など職場で教えてもらえないまま働いている女性が多くいます。男性の家事時間の少なさなど、女性に負担が多く、働く環境の厳しさが女性のからだに様々な変調を生じさせています」と現状を語ったうえで、「女性はホルモンに支配されているため、過度の負担がかかると生理が止まったりもします。正常な月経は健康のバロメーターであり、一度壊れたホルモンバランスはなかなか治らなくなってしまいます」と現状を語ったうえで、「女性はホルモンに支配されているため、過度の負担がかかると生理が止まったりもします。正常な月経は健康のバロメーターであり、一度壊れたホルモンバランスはなかなか治らなくなってしまいます」と警鐘を鳴らしました。また「日赤の血液センターの統計では、HIV患者が増加傾向になり、性体験の若年化もあり、若い人には、性感染症の知識を持って欲しいです」とも語っていました。

講師の太田千枝子さん

今、女性が安心して出産するための体制が危機的状態にあることを懸念し、婦人科、精神科、脳外科など、人の生死の最前線で、看護師として働いてきた太田さんのお話は迫真力がありました。また、波乱万丈な人生経験からのアドバイスには会場がなごやかに沸きました。

第54回日本母親大会　in愛知

25の多彩な分科会、シンポジウムなど盛りだくさんの内容です。みなさん参加してみませんか？

★分科会　7月26日(土)12:00～16:30
名古屋工業大学、つるまいプラザ、名古屋市公会堂

★全体会　7月27日(日)10:00～15:00
ポートメッセ・なごや第3展示館

★会員券　1日2,500円

★主　催　第54回日本母親大会実行委員会
tel:03-3230-1836　fax:03-3230-1837

※大会記念品、書籍コーナー、文化行事、大物産展などもあります。

※1歳以上の子どもさんを預かります。申し込みは7/10までに実行委員会へ。